

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成25年5月23日(2013.5.23)

【公表番号】特表2011-523950(P2011-523950A)

【公表日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2011-034

【出願番号】特願2011-511955(P2011-511955)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7048 (2006.01)

A 6 1 P 3/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/16 (2006.01)

A 6 1 K 47/22 (2006.01)

A 6 1 K 47/42 (2006.01)

A 6 1 M 5/178 (2006.01)

A 6 1 N 1/36 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/7048 Z N A

A 6 1 P 3/06

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/16

A 6 1 K 47/22

A 6 1 K 47/42

A 6 1 M 5/18

A 6 1 N 1/36

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月30日(2012.3.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

活性成分として脂肪分解増強量のペオニフロリンを含む脂肪分解増強製剤であって、脂肪分解増強量のペオニフロリンの存在下でのSwiss 3T3細胞の培養物中におけるグリセロール放出が、脂肪分解増強量のペオニフロリンの非存在下でのグリセロール放出より大きい、脂肪分解増強製剤。

【請求項2】

前記製剤がクリーム剤またはローション剤を含む、請求項1に記載の脂肪分解増強製剤。

【請求項3】

浸透剤を更に含む、請求項2に記載の脂肪分解増強製剤。

【請求項4】

ペオニフロリン含有アルブミンナノ粒子を含む、請求項1に記載の脂肪分解増強製剤。

【請求項5】

前記製剤が注射用製剤を含む、請求項1に記載の脂肪分解増強製剤。

【請求項 6】

前記浸透剤がアゾンである、請求項3に記載の脂肪分解増強製剤。

【請求項 7】

0.25mg/0.5mL(0.50mg/mL)の濃度のペオニフロリンを含む、請求項5に記載の脂肪分解増強製剤。